

2020 東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ 2019 に向けた取組みと体制について

平成 32 (2020) 年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、その前年にはラグビーワールドカップ 2019 が日本で開催されます。特にオリンピック・パラリンピックでは、国としてもこれをスポーツのみならず、まちづくり、文化・教育、経済・テクノロジーなどの視点からレガシーを残していく大会と位置づけて検討や取組みを進めているところです。

本市においても、オリンピック・パラリンピック等を通じた魅力あるまちづくりに取り組んでいくために組織を設置し、文化・教育、健康・福祉、子ども、商業振興、交流など市内横断的な取組みを積極的に進めていきます。

(1) 2020 東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ 2019 に向けた取組みについて

本市を取り巻く状況を踏まえた上で、今後の取組みの方向性を定めていきます。

今後、オリンピック等国際大会に向けた市内推進会議の設置を通じて方向性を確立していきますが、現時点では以下の項目を検討案として考えています。

視点 1 高齢者も障害者も子育て世帯も活気のあるまちづくりを進めていく。

状況① 65 歳以上人口は今後も増加傾向が続き、平成 26 年 1 月 1 日現在 21.5% の人口比率が平成 57 年には 33.1% へと達する見込みです。

状況② 年少人口は現在の 11.3% から当面微増した後、平成 49 年には 8.9% まで低下する見込みです。

⇒スポーツを通じた健康寿命の延伸、障害者もスポーツを楽しめる環境、親子でスポーツを楽しめる施策を推進していきます。

視点 2 児童・生徒の体力向上を図り、元気なまちづくりを進める。

状況③ 武蔵野市児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（平成 24 年度実施）によると、本市児童・生徒は握力や反復横跳び、ボール投げ等が全国平均、都平均より下回る傾向が見受けられます。

状況④ 都はオリンピック・パラリンピック教育推進校を指定（平成 27 年度本市指定校 6 校）し、スポーツを通じた心身の調和的な発達や国際理解教育など、学校教育現場での取組みを推進しています。

⇒体験を通じた体を動かすことへの興味・関心の醸成や体育の時間の活用など、学校との連携を通じた子どもたちの体力向上を図っていきます。

視点3 人が何度も訪れたいくなるまちづくりを進める。

状況⑤ 魅力あるまち「吉祥寺」を抱え、多様な飲食店等の商業施設に加えて井の頭公園やジブリ美術館など周辺にも恵まれています。

状況⑥ 武蔵野プレイスや市民文化会館、吉祥寺美術館、吉祥寺シアター、図書館や歴史館など文化・生涯学習施設を持ち、文化プログラムを発信していく土壌を備えています。

状況⑦ アメリカ合衆国テキサス州ラボック市、大韓民国ソウル特別市江東区（カンドング）、大韓民国忠州市（チュンジュシ）、中華人民共和国北京市ほか、ロシア連邦ハバロフスク市、ルーマニア国ブラショフ市との交流事業を実施しており、国際交流を通じたネットワークを築いています。

⇒まちのサインの多言語化の推進や、スポーツや国際理解への興味・関心を惹く文化・生涯学習プログラムの充実、国際交流の充実を進めていきます。

**(2) 2020 東京オリンピック・パラリンピック及びラグビーワールドカップ 2019 に向けた
庁内推進会議の設置**

両大会を本市にとって有益なものとするため、施策を総合的に検討し実施するためのオリンピック等国際大会に向けた庁内推進会議を設置し、教育部生涯学習スポーツ課にオリンピック・パラリンピック担当係長の職を設置します。